岩手県立生涯学習推進センター
研修実施報告 Web版

実 施 日：令和２年11月30日
実施場所：岩手県立生涯学習推進センター
受講者数：26名　市町村参加率：30.3%
（10／33市町村）

地域学校協働活動推進員（コーディネーター）研修会

職　員　研　修
有志指導者研修
要　請　研　修

この研修会は、地域学校協働活動推進員（養成講座受講者を含む）と行政担当者、学校関係者等を対象として開催しました。学校と地域をつなぐコーディネーターの役割を再確認するとともに、地域学校協働活動を広めるための広報紙の作成について学びました。

地域は「大地」、学校は「樹木」、コーディネーターは「風」

実践を基にした、髙橋和江先生の講義

「大地」・「樹木」・「風」

盛岡市立好摩小学校　校長　髙橋　和江　先生にご指導いただき研修を行いました。

前半は、髙橋先生が人首小学校と岩泉小学校で実践した、学校と地域の連携・協働の取組からコーディネーターの役割について学びました。

人首小学校での実践では、地元の偉人や歴史について学ぶ「地域を学ぶ」取組と、地域のスクールボランティアの活動から「地域に学ぶ」取組を紹介していただきました。

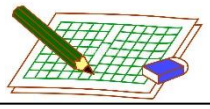
岩泉小学校での実践では、コミュニティ・スクールの機能を活用し、地域の方と岩泉のシンボル「牛」について学んだ取組を紹介していただきました。特に「南部牛追唄」の伝承に取り組んだ様子は印象的でした。

地域は「大地」としてそこにあり、学校は大地に根を下ろした「樹木」として、そしてコーディネーターはそこに吹く「風」として大地と樹木をつなぐような役割を持つとお話しになりました。

後半は、広報紙の作成についてご指導いただきました。テンプレート資料の活用や、書くためのコツについて学びました。

【形式のコツ】
- ○１行の文字数を少なく
- ○カコミで紙面に変化
- ○文字は６割、残りの４割が見出しや写真（イラスト）表で
- ○写真の活用　キャプションを付けて

【文章のコツ】
- ○逆三角形の構成、「結論」から始める
- ○センテンスを短くして、なるべく１文が４０字以内で
- ○易しい言葉で



【読みやすさのコツ】
- ○見出しのフォントは太く
- ○記事（本文）は細めの明朝体か丸ゴシックで
- ○飾りはくどくなく「特にこれは」という見出しの読みやすさを失わない飾りを

《受講者の声》

- 「地域の大人は教師より少し大局的な視点で見てくれる」「地域の大人は優しくじっくり待ってくれる」という部分は、地域と学校の連携・協働にとって重要なことであると思った。
- 学校で行われている地域とつながった学習活動のねらいを、地域の方と共有して進めていくことが大切であると感じた。
- 地域を愛し、子どもを愛する人材に恵まれているので、子どものために地域のために、そして地域の未来のために尽くしていきたい。

《受講者の評価》

A（有意義）	56.0%
B（どちらかといえば有意義）	44.0%
C（どちらかといえば有意義でない）	0%
D（有意義でない）	0%

《担当者（佐藤）から》

- 県内の新型コロナウィルスの感染拡大もあり、申し込んでいただいた方のキャンセルが多数ありました。次年度は、皆様に受講していただけることを願います。